

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 石川県金沢市立十一屋小学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒 921-8106
石川県金沢市十一屋町3-45
Website : http://www.kanazawa-city.ed.jp/jyuuichiya-e/
児童生徒数：男子 245 名 女子 238 名 合計 483 名
児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 担当者

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (地域理解)

4. 活動概要

本校では、「人と地球を大切にし、共につながり合おう！」を学校テーマとし、学年ごとに十一屋校区や金沢にある様々な素材と関わりながら、環境・国際理解・伝統や文化に関する学習に取り組んだ。これらの学習を通して、金沢に学び、金沢から世界へ発信する人材や、持続可能な学校の文化として根付いていくことを目指した。

(1) 1年生（生活科）

「金沢の遊びを知ろう」（地域教育）

近年子供たちの遊びの主流はゲームなどのコンピュータ機器であり、手足を動かして誰かとともに遊ぶ機会が減っており、お正月遊びを尋ねても知らなかったり、知っていてもやったことがなかったりする児童が多かった。そこで、羽根つきや独楽、けん玉、お手玉などで実際に遊び、さらに、地域の昔遊び名人に上手にできる遊び方を教えてもらうことは、単なる遊びの体験で終わるのではなく、地域の方々とのふれ合いやより自分たちの住む町・人を知るよい機会となった。

(2) 2年生（生活科）

「十一屋町探検をしよう」（地域教育）

生活科を中心に、自分たちの町を探検することで、校区の自然に親しむと同時に、町の人と様々な関わりを持ち、自分たちの町の良さに気付かせたいと考え、本テーマを設定した。

まず、校区内のお気に入りの場所や人を伝え合った。その後、その地域に住んでいる児童がミニ先生となり、地域のことを紹介しながら探検を進めていった。そして、探検を通して発見したことをもとに、クラスごとに大きな十一屋マップを作成した。これらの活動を通して、地域の人や場所との関わりを深めることができたと考える。

(3) 3年生（総合的な学習の時間）

「金沢の伝統を知ろう」（地域教育）

茶の湯文化が息づく金沢市では和菓子作りが盛んであり、十一屋界隈においても複数の和菓子店が軒を並べている。本市を代表する和菓子作りという伝統文化に目を向け、それに携わる人々や地域の様子を調べることで、自分と地域との関わりに気付かせたいと考え、本テーマを設定した。

授業では校区で和菓子店を営業している方にスポットを当て製造工程を調べるとともに、金沢で和菓子が栄えた背景を探った。また、学校に和菓子職人の方をお招きし、いくつもの質問を通して、和菓子にかけ熱き心を伺い知ることができたように思われる。さらに総合学習の後半では金沢の自分たちの住む地域の名前の由来を調べたり、金沢城公園散策を遠足のコースの一部に設定したりして、自分たちの住む金沢の良さや伝統に気付かせる行事を取り入れたことにより、僅かではあるが、郷土への親しみが増したように感じている。

(4) 4年生（総合的な学習の時間）

「地域の高齢者の方と交流し、よさを学ぼう。伝えよう。」（福祉教育）

大きな団地を持つ本校区には、高齢者、外国人、一人暮らしの人、あるいは障害を持つ方々が暮らしている。高学年となり自己中心的な考えから脱却しつつある児童の多くが、その存在に気付き始めている。いろいろな

立場の人たちに目を向け、お互いの違いを認め合い支え合う大切さに気づき、共に生きる意味について考える機会となるよう本テーマを設定した。

授業では福祉の意味（交流を通して自分を含めたみんなの幸せを求める活動であること）を知り、自分にできるボランティアを探した。そして、自分の家族にもいる高齢者の方に対してどのような活動をするよいかを考えた。その後、地域の高齢者の方から昔の遊びや戦争中の話を聞き、物の大切さを学んだ。また、高齢者施設万寿苑の方にわかたけ音頭や歌など発表を通して交流し、高齢者の方に楽しんでもらうとともに、自分たちも楽しいひとときを過ごすことができた。その活動を11月の授業参観を使って、保護者の方に感想も含めて伝えることができた。

(5) 5年生（総合的な学習の時間）

「身近な環境を探ろう」（環境教育）

犀川・浅野川の2つの流れを有する金沢は、水の豊かな町である。かつて、寺町台・小立野台地の河岸段丘を形成するほどの暴れ川であった犀川が、本校の眼下に流れる。子どもたちにとって身近なこの犀川について調べたり、交流したりする活動を通して環境に目を向けさせたいと考え本テーマを設定した。

授業では、犀川について本やインターネットを活用して調べたり、犀川に出向き、直接生き物を調べたりして、現在の犀川の環境を把握させることができた。また、調べた結果を交流することでより一層理解を深めることができたように思われる。これらの学びを通して、犀川の環境保護を推進する活動に主体的に取り組もうとする姿や日本全体の環境問題について考えようとする姿が見られるようになってきたことは、大きな成果だと捉えている。

(6) 6年生（総合的な学習の時間）

「開こう世界のとびら」（国際理解教育）

古都金沢の風情を求め、年間多くの外国人観光客が本市を訪れている。また、校区の団地には留学生も多数居住し、本校の子どもたちにとって外国の方々と接する機会は少なくない。金沢の歴史や伝統を踏まえ、本学習が国際社会に目を向ける第一歩なればと願い本テーマを設定した。

授業では、自ら興味をもった国の文化や歴史等について調べ、理解を深めるとともに、外国の方（中国、ロシア、ブラジル）をお招きして交流を深めた。外国の方の自己紹介を兼ねた各々の国についてお話を聞くコーナーでは興味津々な表情の子どもたちが数多く見られた。また、子どもたちから日本や金沢の遊びや文化を紹介し共に遊ぶ場面では、臆することなく自然に、楽しそうに活動する子どもたちの姿が見られ、外国の方と交流する喜びを感じさせることができたように思われる。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）

